

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	(有)コープンシャ		
事業所名	グループホームほのぼの平尾の家		
所在地	四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/24/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyouvoCd=2470201290-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 24 年 11 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物は民家を改修しており、利用者様たちにはご自分の家で過ごしている様にゆったりと過ごして頂けるのではないかと感じています。
立地的に自然が多く、毎日散歩に出掛けるのが日課となっています。
地域とのかかわりとしては、月一回の「ふれあい広場」に参加させて頂くことが利用者様たちの楽しみにもなっており、交流を深める場ともなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の直ぐ前に緑豊かな地域の公園、玄関先には柚子畑、周囲には田畑と多くの農家がある長閑で自然に恵まれた環境の中に、モダンで豪華な洋館建ての民家を改装し、利用者皆が座り心地よいソファでテレビを見ながら寛げる居間、広くて明るい居室は同じ間取りではなく照明器具や押入れ等それぞれに工夫され、誰もが一度は住んでみたいと思われる事業所である。日々の暮らしは『ゆっくり、一緒に、楽しく、地域とのつながりを大切に』の理念の下、利用者と職員が家族のような雰囲気であり、「出来ることは自分です、何時も笑顔で何でも一緒にする」を日々のモットーとし、日常的に事業所周辺の散歩、毎月『ふれあい広場』でのイベントに職員と共に参加している。居間に愛犬ミニチュア・ダックスフンドが利用者にも可愛がられ飼われていて癒しの一つとなっている。又、頻繁に近隣の方が野菜の差し入れをしてくれる等積極的に地域との交流がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく、地域とのつながりを大切に」を理念とし、誰もが目につくりピンギに掲示し利用者様がのんびり過ごして頂ける様に家庭的な雰囲気大切にしていきたいと思ひます。	日々事業所周辺の散歩、毎月『ふれあい広場』のイベントに利用者と職員と一緒に楽しく出かける等多くの外出機会があり、家庭的な雰囲気地域との交流を大切に理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月一回の地域の行事には出来る限り参加させて頂き、利用者様・職員共楽しく過ごさせてもらっています。 近所の方から野菜等をよく頂き喜んでます。	散歩の際、近所の方との挨拶・会話は日常的に行われている。『ふれあい広場』のイベントに毎月参加、小さい子供から高齢者の多くの方が参加する地域の夏祭りに参加、又、地域の方々から時々野菜の差し入れがある等地域との交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に参加させて頂いた時や、推進会議の時などに高齢者のとこで悩んでみえる方がおられたら、話を聞いたりして対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の定期開催をしています。 家族様や地域の方、行政機関の方との情報交換の場として活用させて頂いています。	市、包括支援センター、利用者家族、民生委員、自治会長をはじめ介護相談員や近隣住民等多くのメンバーで隔月に開催されている。参加者は福祉・介護に関心が高く、参加者全員から多くの意見・助言・提案がされており有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議でお会いする程度	市とは、運営推進会議の際に事業所の実情報告と相談毎や情報交換するようにしている。今後は利用者サービスの向上に繋がるよう機会ある毎に連携を図っていく意向である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはならない事である為、職員全員で理解し取り組んでいる。	現状は身体拘束に係る事実はないが、前回(前年度)の目標達成計画にあった身体拘束の内容とその弊害についての認識を深めるための研修等は実施されていない。	身体拘束は幅広く内容も複雑であり、身体拘束をしないケアは、利用者の人権を守る基本であることから、身体拘束に係る勉強会は地道に定期的に行い全職員の理解を深められたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても職員全員理解している。また、気が付いたらお互いに話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は今のところ予定なし。 対象者が現在居るので、今後学ぶ機会を検討したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学などにみえた際にもある程度説明させて頂き、入所が決まったら再度詳しく説明させて頂き 疑問等には納得頂けるまで話をさせて頂く様にしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱も設置させてもらっていますが、面会にみえた時、葉を届けて頂いたとき等に直接話をさせて頂いています。	運営推進会議や家族の大半が隔週毎に面会に来てくれる機会に意見や要望を聞き入れ、出された意見や要望は運営に反映している。又、事業所での暮らしの様子を毎月発行の『ほのぼのだより』を送付し、その中からも問いかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや申し送り時に話し合った事を管理者会議や直接上司に伝えたりしている。	管理者は、日々のケアの場や毎月のミーティングで意見や気付き、アイデアを聞き入れ、最近では居室の模様替えや引き戸の改良等、利用者目線でのケアの向上に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	要望等を管理者から代表者に伝え、改善をお願いするが、改善は難しい状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修には進んで参加する様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修の活用		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人及び家族様から困っている事、不安な事、希望等色々な話を聞かせてもらい、信頼関係が持てる様心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後、ご本人の状況をその都度、面会時や電話の際に報告させて頂き、その中で要望等も取り入れる様にしながら、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込から入居まで、何度かお話をさせてもらったり、面接させてもらったりする中で見極め、安心して頂けるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の個性を活かしながら、家族のような関係を築く様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力により成り立っているということを念頭に置き取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人などの面会、外出等は要望通りに支援させてもらっている。	馴染み方の面会は何時でも自由に行けるように心掛け、家族はよく面会に来ているし、友人の訪問も定期的にある。最近では毎月参加する『ふるさと広場』のイベントで合う方々との新しい馴染みが芽生えてきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がうまく関わりあえる様見守りしたり、間に入ったりして孤立の無い様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から連絡があれば対応・支援させて頂きたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の日常生活の中で、本人の思いをくみ取る様に努めています。 困難な場合は利用者様本位になり話し合いをしています。	利用者と一対一になる寄り添う時間を大切に、世間話をする中で思いや意向を聞きとっている。又、その日の体調や表情からも把握し、把握した事は日々の申し送りや毎月のミーティング等で話し合い職員皆が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族様・本人との話から生活歴や暮らし方を情報収集し、サービス利用の継続に繋げられる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることの発掘や一日の過ごし方の把握、バイタルの把握、入浴時の身体チェック等、安心して過ごして頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ミーティングの際、利用者様一人ひとりのカンファレンスを行い、また、面会時には本人・家族様と話し合いケアプランを作成しています。	介護計画の見直しは、全職員が参加する月1回開催のミーティングで話し合いモニタリングし、必要があればその都度、定期的には3ヶ月毎に見直している。家族には見直しの都度説明し、家族の意見は計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌には一日の様子がわかる様に記録しており、いつでも確認出来る様にしている。また、日勤者・夜勤者間で申し送りし、ケアの見直しもすぐに行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病気の受診や日々の日用品の購入の代行等、忙しい家族様に代わって援助させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	平尾町の地域の方々の支援を受け、色々な行事に参加させてもらい楽しませて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員月二回の往診を受けている。往診時にはバイタル・体の様子等を書いた受診表を記入し報告している。何かあれば24時間体制で連携を取っている。	入居以前は利用者個々のかかりつけ医であったが、全ての利用者と家族の意向で、隔週の往診と緊急時等24時間対応が可能な事業所の協力医療機関がかかりつけ医となり、安心して適切な医療が受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度看護師が出勤しており、様子などを伝え相談している。緊急時の場合はその都度連絡を取り対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様や病院のケースワーカーと連絡を取り合い、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状の利用者様の状態についてかかりつけ医や家族様とも十分話し合いをし、当事業所で出来ることと出来ない事の説明をし、そのまま継続もしくは他施設希望ならば紹介させてもらったりしています。	重度化や終末期に向けての対応については、契約時に現状の事業所における体制では支援が困難であると説明し理解してもらっている。契約時の段階から特養等他の施設に申込み、状態の変化に応じ協力医療機関の協力を得ながら対応出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の看護師にミーティング時や事あるごとに応急処置の方法を教えてもらったり、指示を受け少しずつ身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自動通報装置・スプリンクラーの設置済。7月に通報訓練、10月に夜間想定で18:30～避難訓練実施。台所に勤務帯による担当を決め掲示し、各自が意識を持って行動するようにしている。	今年になってスプリンクラー、火災報知機、消防署直接通報機を設置。年2回消防署の指導で火災中心の防災訓練が実施されているが、地震を想定した災害対策(避難訓練等)は今後の課題となっている。	現状の訓練と共に、夜間並びに大地震を想定し、地震発生時に事業所独自の確かな初期動作が出来るよう、職員個々の役割を明確にしたうえ、定期的に訓練されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた声掛けや対応を心掛ける様、気を付けています。	言葉掛け、言葉遣いが、人格の尊重とプライバシーを損なうことがあるので、利用者個々の性格やその時々言動に合わせ、特にトイレ誘導や入浴時等、利用者の気持ちを害しない接し方に心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの希望には家族様の協力を頂いたりしながら、可能な限り応じられる様に心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日のペースに合わせて対応するように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の好みに合わせて支援に努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物、月々の行事に合わせたメニューを考えたり、食べたい物を聞いたりして楽しく召し上がってもらえるように工夫している。	利用者の好みを聞き、近所から差し入れの旬の野菜と冷蔵庫にある物から毎日に献立を考えている。献立に必要な食材は利用者も一緒に買い出し、食事の準備や後片付けに参加し、職員も同じテーブルでの楽しい食事となっている。時々大好きな回転寿司にも出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせ、ご飯の硬さ・量、副食の刻み等考えている。 水分補給にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯の洗浄。 夜間のみ義歯は洗浄剤に浸けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を促す様にし、失禁のある方は時間誘導を、自立の方も汚染等ないか見守りはさせてもらっています。	排泄の現状は、一部介助者が2名いるものの、誘導と見守りの支援で全員がほぼ自立でトイレ排泄が出来る。1名は夜間のみ居室でポータブルトイレを使用している。目指すはオムツをしない暮らしとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけ、便秘の症状がみられる時は主治医と相談し、下剤服用につながったケースもあります。 水分補給や繊維質の食材を使用する等、配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	二組に分け一日おきに入浴して頂いている。 時間帯は決まっているが、その日の状況や体調に応じ臨機応変に対応しています。	風呂は毎日沸かしているが、利用者の体調や希望に合わせ、おおよそ一日おきに午前中の入浴となっている。浴室は大変広く一人でゆっくり、ゆったり、又、玄関先の畑で採れる柚子を浮かべ季節を感じ楽しみながら入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない方には、会話をしたり水分補給をしてもらったりして安心して休んでもらえる様、支援している。 室温にも気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安室に服薬して頂けるように傍について見守りしたり、口の中に入れてあげたり確認しています。 また、保管方法は誰が見てもわかるようにし、仕分けはダブルチェックで行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の趣味・特技・娯楽等を提供し、楽しんで頂けるよう工夫しています。 家事等もいろいろお手伝いして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候もいい時は毎日の散歩を心掛け、交代で買い物・ドライブ等にも出かけている。それ以外、職員の対応が無理な場合は家族様と相談しお願いしている。	事業所の直ぐ前の公園沿いにうってつけの散歩コースがあり、外気浴を兼ねての散歩が日課となっている。また、毎月地域の『ふれあい広場』でのイベントに参加、食材の買い物、季節毎の花見、イチゴ狩りや近くの神社に初詣する等多くの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は全員金庫で保管し、本人が欲しいものがあればそこから出して購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を繋いだり、手紙を出せる様に支援させてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節毎に貼り絵を作ったりして陽射しも取り入れる様にしています。	外観は鉄骨コンクリート造りであるが、内装は温もりを感じる木造である。豪邸民家を改装した居間兼食堂は、皆が座れて寛げるソファがあり、食後はテレビを見ながら楽しく過している。壁には利用者と職員で作った季節毎の作品がバランスよく飾られる等、生活感・季節感が感じられる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者様が自分の席を確保しており、楽しく話をしたり落ち着いて過ごせるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた物や使い慣れた物等を置いたりして、自由に使って頂いています。	各居室とも掃除が行届き、きれいである。備付けの押入れは広く、持ち込まれた衣類等はその中に収納され、壁にも一部の利用者のみ好みの写真や絵が飾られているだけで、全体が小ざっぱりとシンプルな部屋づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活して頂ける様に、不備があればすぐ修理してもらったり、改善したりしています。 掲示物も利用者様の個々の目線に合わせてたりしています。		